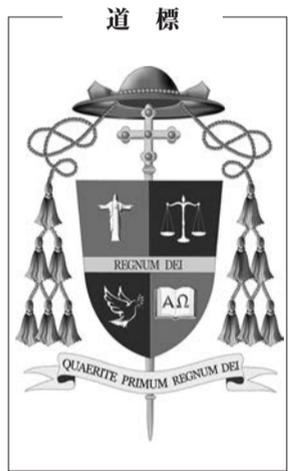




〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099 (226) 5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



年頭の辞 光は暗闇で輝いている

鹿兒島教区司教 中野 裕明



深淵の面にあった(同上1・1・1・2)状態のことでした。つまり、光が現れる以前に天地は創造され、地は闇に覆われていた、ということになります。

ところで、ヨハネ福音書の冒頭(1章1・18節)はご存じのように荘厳な語り口で始まります。それは、「言」についての説明です。この「ことば」の原語はギリシャ語の「ロゴス」です。この「ロゴス」について、デジタル大辞泉は次のように解説しています。

教区の皆さま、新年あけましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。昨年の2月から始まった新型コロナウイルス禍は現在も終息の兆しが見えないまま、新年になってしまいました。終息の日を期待しながら忍耐強く毎日を健康に留意して過ごしてまいります。

さて、教会の典礼暦では新年はいつも主の降誕節の中にあります。救い主の誕生を祝うこの季節は、特に人間となって私たちの許に来てくださった神の子イエス・キリストを称える時でもあります。それはちょうど暗闇の中で一条の光を求める人間の在り方を示しています。

「光あれ」と言われ光が存在するようにになりました。(創世記1・3)それは「地は混沌であって、闇が

る「光」とは勿論、皆さまお気づきと思いますが、それは電灯の光でも、太陽の光でもありません。それはイエス・キリストご自身のことです。そうすると、ここで言われている暗闇も、電灯のない状態でも、夜の暗闇でもないことがわかります。それは、端的に言って、私たちの心の暗闇であると言えるのではないで

司祭団で司教の霊名を祝う 12月開催のコンベンツス

12月1日(火) 午前11時から教区本部で開かれた全司祭助祭会議(コンベンツス)では「日本のカトリック教会における感染症対応ガイドライン」についての説明があったほか、1月18日から3日間開催される司祭大会の内容などについて話し合われた。

また会議前10時からザビエル教会で、フランシスコ・ザビエル中野裕明司教



ようか。昨年からの新型コロナウイルス禍のせいで私たちはこれまでの生活習慣の変更を余儀なくされています。それは、ある意味、安楽な生活から自制心が求められる生活を、悪に流されやすい生活から善を選び取る生活を、欺瞞に満ちた生活へ墮ちる誘惑から真理を探究しそれに追従する生き方を、これらは暗闇から光へと回心する好機(チャンス)であると捉えることができます。

全世界の人々が、欺瞞や強欲の精神から解放され、真理であり光である神の子イエス・キリストを褒めたたえ真の平和を希求することができまますように。

シノドスニュース

▼信仰部会 11月22日(日) 教区本部で会合を行い、みことばの分かち合い、班組織について意見を交わした。

▼三部門合同会議 12月9日(水)、司祭大会がシノドスをテーマにすることから教区本部に三部門から代表が集まり、実施方について話し合った。

奉獻生活の恵みへの感謝と新しい召命を願う 奉獻生活者のためのミサ 日時: 2月6日(土) 14時 場所: ザビエル教会 司式: 中野裕明司教 主催: 鹿兒島教区修道女連盟 ※コロナ禍のためミサだけの予定です。心を合わせてお祈りください。

2021年 苦難の中にあっても神を信頼して進みましょう!

鹿兒島教区の司祭・助祭

教区長 中野裕明 名誉司教 郡山健次郎 司教総代 泉浩二

本土地区

P・アン(始良教会)、郡山健次郎(指宿教会)、朴 鎮亮(加世田教会)、泉 浩二、霧島 彬(鴨池教会)、小隈憲士(ザビエル教会)、頭島 光、W・ボスコ(谷山教会)、梶尾泰英(種子島教会)、李 秉徳(玉里教会)、山口好信(紫原教会)、鄭 法鍾(吉野教会)、O・ベルナルディーノ(鹿屋教会)、泉 浩二、霧島 彬(垂水教会)、J・サンタマリア(国分教会)、寝占 敦之(志布志教会)、朴 昶奎(溝辺教会)、鄭 成淙(出水教会)、鄭 成淙(阿久根教会)、J・ハンマ(入来教会)、橋口 啓悟(大口教会)、T・メニツヒ(川内教会)

大島地区

内野洋平(大笠利教会)、松永正男(古仁屋教会)、鈴木康由(小宿教会)、J・タム(大熊教会)、宋 診旭(瀬留教会)、G・ティエン、諏訪勝郎(名瀬聖心教会)、松永 正男(古田町教会)、福崎英雄(徳之島地区教会)、福崎英雄(和泊教会)

教区本部

中野裕明、末吉卓也、小川靖忠、丸野六雄 司教館 永山幸弘

その他

貴島丈弥(留学)、田原 章、坂本 進(引退)

終身助祭

桃蘭淳一郎(鴨池教会)、池上聖行、池上利男(徳之島教会)久保俊弘(谷山教会)、川口 茂(加世田教会)、石神秀人(阿久根教会)、四條淳也(喜界島教会)、小島芳武(川内教会)

司祭評議会

中野裕明(会長)、泉 浩二(副会長)、末吉卓也(事務局長)、頭島 光、福崎英雄、梶尾泰英、O・ベルナルディーノ、G・ティエン、J・サンタマリア、内野洋平(以上、評議員)

教区顧問

小川靖忠、小隈憲士、頭島 光、O・ベルナルディーノ、泉 浩二、内野洋平

責任役員会

中野裕明(代表役員)、永山幸弘、小川靖忠、小隈憲士、泉 浩二

聖母子像など3体を設置

信仰の励みとしたいと始良教会

聖マキシミリアノ・コルベ神父を保護の聖人にして
いる始良教会に、このほど
聖母子、聖ヨゼフ、聖コルベ

神父の3体の木像が設置された。始良教会の1人の信徒の義兄(牧野厚さん・未洗者)から金銭の寄付があり、その使途について検討した結果、主任司祭パウロ・アン神父の発案により像の設置の実現となった。

ご像と台座の祝別は11月22日の「王であるキリスト」の祭日に、感謝と喜びのうちに実施された。1年前は、教皇来日に沸き立ったが、

新型コロナウイルス感染拡大により、始良教会も他の小教区同様公開ミサができない期間があり、11月現在、主日のミサは二つのグループに分け、座席の間隔を開けての参列となっている。このような時期であるだけに、ご像の設置は信徒一同にとって大きな喜び、希望、信仰の励みとなった。聖堂は日中開放されており、個人の聖体訪問など自由にできる環境、その聖堂がご像の設置によりますます祈りの雰囲気が高まった。

始良教会は、小平卓保神父が在任中に献堂(1986年5月25日)され、今年で34年目である。聖堂は木造平屋で窓には障子があり、和風で落ち着いた雰囲気である。またミサ中の聖歌の伴奏には、他の教会では見られない大正琴とオルガンのコラボがなされる。旋律がはつきりしていて歌いやすいと評判である。さらに、末吉卓也、霧島彬神父様はこの出身で、現在教区で活躍している。

(報告・始良教会通信員)



左から聖コルベ、聖ヨゼフ、聖母子像

修道院にご像の製作を依頼したもので、それぞれ1本の木から彫刻された木像である。ご像設置のための台座は、大熊小教区に所属する1人の大工さんが作製してくれた。この方は、これまでに大熊小教区では芦花部教会の祭壇、和光園教会の死者のための祈りの祭壇、大熊、浦上、和光園教会で行われるマリア祭

+KABAYAN SEKSYON+
Dakilang Kapistahan ni Maria Banal, Ina ng Diyos-Enero 1, 2021.

Sa umpisa ng bagong taon, inaanyayahan tayo ng Simbahan na pagbulayan ang banal na pagdadalang- tao ni Maria bilang larawan ng kapayapaan.

Sa pagkatao ni Maria nagkakaroon ng katuparan ang sinaunang pangako [ng Diyos]. Pinaniwalaan niya ang sinabi sa kanya ng anghel, ipinagbuntis niya ang kanyang Anak, at naging ina ng Panginoon.

Sa pamamagitan niya, ng kanyang "Oo", dumating ang kapunuan ng panahon. Sinasabi ng ebanghelyo na ating karirinig lamang na "iningatan ni Maria ang mga [salitang] ito at pinagnilay-nilay sa kanyang puso (Lu 2:19).

Nagpapakita siya bilang isang sisidlang nag-uumpaw ng alaala ni Hesus, bilang Luklukan ng Karunungan na maaari nating dulugan upang maunawaan ang kanyang itinuturo.

Sa ngayo'y tinutulungan tayo ni Maria na unawain ang kahulugan ng mga pangyayaring umaantig sa atin, mga pangyayaring may epekto rin sa ating mga pamilya, sa mga bansa, at sa buong mundo.

Saan mang hindi naaabot ng pilosopikal na pag-iisip at usapang political, doo'y naaabot naman ang kapangyarihan ng pananampalataya, na siyang nagdadala ng grasya ng Mabuting Balita ni Kristo at nagbubukas ng mga bagong landas para sap ag-iisip at pang-uusap.

Pinagpala ka, Maria, sapagkat ibinigay mo ang Anak ng Diyos sa mundo. Ngunit mas pinagpala ka dahil sumampalataya ka sa kanya. Puno ng pananampalataya, ipinagbuntis mo si Hesus sa iyong puso at sa kalauna'y sa iyong sinapupunan, at ika'y naging Ina ng lahat ng mananampalataya.

O Ina, ipadala mo sa amin ang iyong pagpapala sa araw na ito na inilaan para sa iyong karangalan. Ipakita mo sa amin ang mukha ni Kristong iyong Anak, na siyang nagkakaloob ng awa at kapayapaan sa mundo. Amen
 (Fr. Dino Orolfo)

私たちが読む聖書は翻訳されたものである、ということとを忘れてはなりません。もし私たちが字面からイメージを膨らませるとイエス様の御言葉を誤解してしまうこともあります。こうしたことを今回と次回にわたって「地獄」という言葉から考え

モーセに率いられたイスラエルの民が「乳と蜜が流れ出る土地」と言われた約束の地に移住したことにより、(出エジプト3・17、13・5、33・3)。その呼び名の通り

ライ語の「王(モレク)」に由来します。当時の「王」たる者は農耕の収穫を保証した利益をもたらしたりする、所謂「人間を超越した能力を備えている必要がある

あつたということ。モレクが豊作や長寿の保証の見返りに要求したのは王権を継ぐ者の最初の子供の命でした。このためモレクの生贄の儀式は神殿で行われ、シンバルやトランペット、太鼓が鳴らされる中で親たちが生贄となる自分の子供を猛火の中に投げ込むというものでした。残酷とも思えるこの儀式はユダヤ教が浸透した後もしばらくは続いたと言われています。この儀式が行われていた場所がヒノムの谷です(列王記下23・10参照、エレミヤ7・31参

照)。この「ヒノムの谷」をカタカナで表記すると「ゲヘンヒノム」となります。このヘブライ語をギリシャ語に音写したのが「ゲヘナ」なのです。こうしたこと踏まえて次回はイエス様がこの言葉によって何を語ろうとしていたのかを考えてみましょう。



モレク神

《康由神父の聖書教室》

地獄についての考察

肥沃な土地にはそれぞれの固有の神をもつ先住民たちがいました。この中のモレクと呼ばれる神が「地獄」との関連で問題になります。「モレク」という名はヘブ

会 と 催 し 1月	
1日 (金)	神の母聖マリア
3日 (日)	世界平和の日
4日 (月)	主の公現
4日 (月)	七田八十吉神父命日(1980年)
5日 (火)	ルカ神父命日(1998年)
6日 (水)	教区本部事務所仕事始め
6日 (水)	中野アカデミー・教区本部・19時
10日 (日)	主の洗礼
12日 (火)	古田町教会・堅信式
12日 (火)	みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
13日 (水)	中野アカデミー・教区本部・19時
14日 (木)	永島泰蔵神父命日(2002年)
17日 (日)	年間第2主日
18日 (月)	レジオナリエ鹿兒島コミチウム・谷山教会・14時
18日 (月)	キリスト教一致祈禱週間・25日
19日 (火)	司祭大会・教区本部・20日
19日 (火)	ハイシク神父命日(1989年)
20日 (水)	中野アカデミー・教区本部・19時
24日 (日)	年間第3主日(神のことばの主日)
24日 (日)	シノドス信仰部会・教区本部・14時
25日 (月)	ロバルト神父命日(2020年)
25日 (月)	聖パウロの回心
26日 (火)	郡山健次郎名譽司教霊名
26日 (火)	フェリエ神父命日(1919年)
27日 (水)	中野アカデミー・教区本部・19時
30日 (土)	成相明人神父命日(2020年)
31日 (日)	パストラルケア・教区本部・14時
31日 (日)	年間第4主日
31日 (日)	世界子ども助け合いの日(献金)
31日 (日)	ボスコ神父霊名(聖ドンボスコ)
▼【司教日程】6日中野アカデミー、10日堅信式(古田町教会)、13日中野アカデミー、14日聖マリア学園、18日20日司祭大会、20日中野アカデミー、27日中野アカデミー	
▼祈りの意向	
福音宣教 人間愛	
日本の教会 世界の連帯と協力	
★2人のシスターの金祝を祝う「ゆらいあい」	
高齢者の集い「ゆらいあい」では、誓願立50年を迎えたレデンプトール宣教師修道女会の安藤克子、澤ヤエ子の両修道女に日頃の感謝を込めて、記念ミサと祝賀会を11月14日(土)午後、鴨池教会で開きました。コロナ禍のためこの催しの開催も危ぶまれましたが、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」(テサロニケ)や「司祭・修道者のための祈り」が背中を押してくれ、実施の運びとなりました。ゆらいあい関係者を中心に60人が参列しました。縮小して実施された祝賀会では、シスター方に花束とメッセージを書いた色紙を贈りました。またシスター方からもご挨拶をもらいました。そして持ち帰り用の茶菓子を手配しました。(報告 支援係・ザビエル教会 町田博文)	

教区シノドス これからどう進む④ 全員参加の共同体を目指して

教区シノドス推進会事務局 長 野 宏 樹

3. 小教区評議会中心の教会

前回は、「活動団体中心の教会」という小教区のタイプを提示しましたが、今回は「小教区評議会中心の教会」の姿をながめてみることにします。

2. 第二バチカン公會議と小教区評議会

1. 小教区評議会の登場
左の絵は、小教区評議会が中心の姿を表しています。これまでの2つの絵と比較して大きく変わったところは、どこでしょうか。

まず第1に、主任司祭が聖堂の中心にはおらず、左側の信徒のグループと一緒に座っています。このグループは、小教区評議会を表しています。

この小教区評議会では、主任司祭が中心になりながら、小教区のさまざまな問題について話し合っています。

を傾けながら、小教区内のさまざまなことがらに関する、より充実した決断を下せるようになったのです。

この新教会法が出されてからは、世界中の多くの教区で、教区司牧評議会や小教区司牧評議会設置の動きが進められていくこととなります。

3. 鹿児島司教区の動き

第二バチカン公會議以来この55年の間に、小教区評議会またはそれに近い形の組織が多くなっています。第二バチカン公會議の精神の基本に流れている、信徒各自にキリストからゆだねられている使命を再確認・自覚できるようにした成果でもあります。

第二バチカン公會議では16の公文書が出されましたが、そのほとんどで、信徒の役割というものが強調されました。そしてさらに、「信徒使徒職に関する教令」26項では、教会の使徒的活動を助けるための、教区および小教区における「評議会設置の必要性」も強調されています。

KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 1月号

公會議が終了してから20年近くたった1983年には、その精神に基づいた新教会法が発行されましたが、その中(第536条)ではさらに、司教が必要と判断した教区における小教区司牧評議会

行したのは実に画期的な出来事であったといえるでしょう。

4. 小教区評議会の役割

初期の段階では、小教区評議会のメンバーは、自分たちを司祭の「お手伝い」をする単なる協力者だと考える傾向が強かったように思えます。

これは、小教区評議会のメンバーたちが、主任司祭に声をかけられた人だったり、その人のことをよく知らない数名の役員たちによって選ばれた人だったり、あるいは選挙で選ばれたので仕方なしに任務を引き受けた人だったりしたことに、原因があるのかもしれない。

現在では、多くの小教区評議会が活発な活動を展開しているように思えます。小教区活動に必要なことは、ほとんどすべてを取り扱っているところもあるようです。従来は司祭の役目とみなされていたことがらでも、信徒にできることであれば、互いに分担し

短歌

吉野教会 中江 均
主のもとに召されし霊に
捧ぐミサ マスク居並ぶ
唐湊墓地の秋

主よ主よと馬酔木重ね辿り
来て 明日をも委ねん霜
月のミサ

5. 次のステップは?

このように、小教区評議会発足からこれまでの38年間に大きな変化がありました。しかし、これまで提示してきた3つのタイプの教会(主任司祭中心の教会「活動団体中心の教会」小教区評議会中心の教会)の絵を見くらべてみると、小教区それ自体はそれほど変化していないことにも気がつくと思います。

どのタイプの小教区でも、信徒たちは、一人か二人で、あるいは家族単位でミサに参加していますし、活動団体もそれなりに活躍しています。具



私の住む曾於市大隅町は高齢化が進み若者は希少。その点教会はまだ若い。志布志教会では、日本人は60、70代が中心だが、ベトナムの20代の青年たちがいるし、また40、50代のフィリピン人とその子供たちがいる。

しかし日本はまだ「異質な者を排除する村社会」で、兄弟姉妹や親戚・近隣と宗旨が異なる場合、その狭間に立つて困る人は少なくない。困る理由は、周りのみんなと同じで、波風を立てたくない、世間の白い目を怖れるなどである。こうしたみんな

に合わせるという「同調圧力」を強く感じてしまう。外国人たちも私たちキリスト教徒も、日本の社会においては同じ少数派の兄弟で「抑圧される側」になる。この「抑圧される側」になるのを「自分の思いを貫けるか」「もしそうしたら子供たちは、世間はどう思うだろうか」などと付度してしまおうのである。思うに私たち日本人に個人の意思は認められず、「家」や「村」が連帯責任を負ってきた。みんなを意識する「同調圧力」は日本社会に古くから深く根付いている。飛鳥時代

の聖徳太子の十七条憲法の第一条に「和を以て貴しと為し忤ふこと無きを宗と為す」とあるがこれは、個人の意思を封じ込める圧力である。徳川家光はキリスト教信者をスパイとして摘発するために「五人組」をつくり出した。これが「自衛警察」の始まりのようだ。明治時代の「隣組」、戦前戦中の「自警団」、戦後の「公民館制度」と現代まで引き継がれている。これらは「異質なものを排除する」と抑圧するもの。現在の教育も画一教育で、人は生まれてからずっと標準と比較されながら成長し、個性は軽んじられてきた。ラジオ体操も「みんなと同じに」「はみ出ないよう」である。

今はコロナ禍で、一見国民は一致しているかに見える。自粛マスクも、自衛警察も健在であるが、政府はこの機を逃さないように負の遺産を煙に巻いた。借金王国も、数々の憲法違反の立法も煙に巻いて過去のものとした。外圧を過大に宣伝して戦争準備をすることも…。なによりもコロナ騒動に紛れて「緊急事態宣言」を形だけテストして弾を込めると一日で変身して、戦前戦中の憲兵や特高のように強制力を持つ。この度の憲法改定の主目的はこの「緊急事態に国民を総動員することを合法化する」ことにある。ある右翼系機関誌は「現憲法下の民主勢力は、組合などの分断作戦でほぼ壊滅

れた。そして、使徒たちの後継者である各教区の司教様方は、その任務を各主任司祭方にも託しておられます。そこで新教会法では、主任司祭に託されているこの司牧の任務を可能な範囲で小教区司牧評議会にも担ってほしい、という意図を込めて、「司牧」という言葉が使われているわけです。

体的に変わった点は、主任司祭が小教区評議会の中で信徒と一緒に話し合っていることだけです。しかし根本的には、「主任司祭中心の教会」の姿はそのまま残っています。つまり、一般の信徒たちにとって、評議会のメンバーは聖職者と同じように自分たちとはほど遠い存在の人たちであり、その人たちに従っておりさえすればよい、という依存体質からはまだ抜け出せていないのです。

「小教区評議会中心の教会」になったということは、それまでの教会の歩みからすれば大変革であったことだけは事実ですが、この評議会も、大多数の信徒に大きな影響力が及ぶところまでにはまだ成長していないように思えます。小教区はいま、さらに新たな段階に進む時期を迎えているのではないのでしょうか。

次回は、第四のタイプの教会像として、「自覚する教会」について考えていきたいと思います。

した。皇国復活憲法の準備はあと国民投票で完了」と言う。これらの激しく変化する今の世の中をつくったのは私たちの世代のことであり、それを受け継ぐのは子や孫たちの世代である。白い目を怖れずに私たちの信仰をはっきりと伝えよう。どんな社会になろうとも「抑圧される側」に立ち、苦しみの叫びをあげよう」。(志布志教会・芝原慶次)

▼社会問題の分かち合い
(毎月第三土曜日)
日時：1月16日(土)
13時～16時
場所：教区本部
内容：原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他